

## ▼最新ニュース

現在時刻:2009年10月23日

2009年10月22日(木)

ヨットハーバー存続求め要望

スポーツ

県の外部委員会が売却や廃止を提言している大津市の県立柳が崎ヨットハーバーの存続を求め、県セーリング連盟が22日、知事に要望書を提出しました。大津市のびわ湖岸にある県立柳が崎ヨットハーバーは、今から46年前の昭和38年に設置されたもので、現在は連盟と県体育協会が指定管理者となって運営されています。ヨットの全日本選手権や全国大学選手権の会場にも利用されているほか、ヨット選手の練習の拠点として過去には北京オリンピックのセーリングで7位に入賞した松永鉄也選手をはじめ、世界で活躍する多くのヨット選手を輩出してきました。

しかし、県の外部委員会「県行政経営改革委員会」は今年8月「利用者の大半が特定団体で、民間への売却を検討するべき」とした上で、売却が不調に終わった場合は、指定管理期間終了後の来年度に廃止するよう提言しています。県セーリング連盟によりますと、県内には民間のヨットハーバーもありますが、ヨットのような船の練習ができるのは県立柳が崎ヨットハーバーだけだということです。このため山田会長らは「柳が崎ヨットハーバーがなくなれば、大きな大会の開催や、子どもたちの練習ができなくなる。びわ湖の大切な文化であるヨットの灯が消えてしまう。」などと存続を求めています。